

令和4年度 「全国学力・学習状況調査」結果の分析

【国語】

- 全体として、東京都の平均正答率を 5.5 ポイント、全国の平均正答率を 4.4 ポイント上回っており、総体的に本校の児童が国語科の学習に前向きに取り組んでいることが伺える。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国の平均正答率を 7.9 ポイント上回っていた。話し言葉と書き言葉の違いが理解できているとともに、学年別に配当された漢字を正しく使う力の定着が見られる。日頃の授業における漢字指導や家庭学習の蓄積による成果が大きく表れていた。
- 「我が国の言語文化に関する事項」は、東京都の平均正答率を 1.4 ポイント上回っていた。漢字の仮名の大きさ、配列に注意して書く力について定着が見られる。
- ▲「話すこと・聞くこと」は、全国の平均正答率を 0.3 ポイント下回っていた。本調査において、話し手が伝えたいことや自分が伝えたいことの内容を捉えることに苦手としている実態が見られた。国語科の授業を中心に、各教科の授業や学級活動等において、話し手の意図を意識して対話する指導を進めていく。
- ▲「書くこと」は、全国の平均正答率を 2.3 ポイント下回っていた。文章の全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えて書くこと、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることへの苦手意識が伺えた。文章を書く作業に対して苦手意識をもつ児童も多いため、書くことへの抵抗感を下げ、楽しく取り組めるようにするとともに、文章を書いた後は上記の課題を意識して互いの長所を見付ける視点を示しながら指導をしていく。
- 「読むこと」は、全国の平均正答率を 8.1 ポイント上回っていた。物語の単元において、登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に考える力や登場人物の相互関係について描写を基に捉える力などが、日頃の授業の中で定着していることが伺える。

【算数】

- ▲教科全体の平均正答率は、全国の平均正答率を数ポイント上回り、都とほぼ同等の平均正答率となった。
- 「数と計算」の領域では、全国・都の平均正答率を下回っているが、被乗数に空位のある整数の情報計算問題は 90%を超えていた。正しく整数の乗法を計算する力が定着できている。
- ▲「図形」の領域では、図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する問題は、全国・都を上回る正答率であった。しかし、図形を構成する要素に着目して記述する問題については、正答率が都より 5 ポイント下回った。図形の作図などを通して図形同士の関係に着目することや、角の大きさに着目し、柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりできるように指導していく。自分の考えを分かりやすくノートに書いたり、筋道を立てて説明したりする技能を伸ばしていく。
- ▲「変化と関係」の領域では、全国・都の平均正答率を上回っていた。しかし、問題別にみると数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかの問題では都より 0.6 ポイント上回った平均正答率ではあったが低い正答率であったことから、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があるということの理解を深めていきたい。

- ▲「データの活用」の領域では、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する問題が都の平均正答率より下回った。データ分析をする際に、どのような観点に着目していけばいいのか定着させていく必要がある。身の回りの事象について表やグラフを用いて考察する機会を多くもち、そこから見いだしたことを表現できるよう指導していく。しかし、円グラフの特徴を捉え、目的に応じて選択し、必要な情報を読み取る問題では、都の平均正答率を8ポイント上回る結果となった。様々なグラフの用い方を今後も指導していきたい。

【理科】

- 教科全体の平均正答率は東京都と同率で、全国より1.7ポイント上回った。学習指導要領の領域の平均正答率の状況も、都、全国とほぼ同じ四角形を示している。
- ▲問題別の集計結果も、都、全国と比較して、大きな差はほとんど見られなかったが、メスシリンダーの名称・扱い方についての問題の正答率が、低かった。
- 水溶液の性質についての問題の正答率は、むしろ都、全国を上回っているが、実験の方法等と合わせ、器具の名称や扱い方について知識が定着するように指導していく。
- 区分・領域別では、B区分の「生命」を柱とする領域の正答率が都、全国を上回った。自然事象との出会いや、児童の気づきや発見を大切に、学習に取り組んできた結果であろう。
- 評価の観点別では、思考・判断・表現において都、全国を上回った。問題解決学習の流れを大切に、今後もこの観点の力を伸ばしていく。
- ▲問題形式別においては、記述式は都、全国を上回ったが、短答式では下回っている。理科の知識理解の定着と合わせて、国語において文章を要約する力を育てていく。